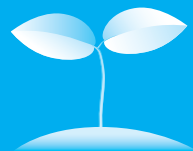


育てよう 鏡野のよい子シリーズ



『当たり前前』のこと

六月。日本中がサッカーワールドカップに熱狂し、初戦敗戦が人々の話題に上っている。その試合のニュースの横に、日本人サポーターの記事が載っていた。敗戦を見届けた後、日本人サポーターたちが観客席のゴミ拾いをして帰ったという記事だ。応援のとき振られていた青いゴミ袋は一石二鳥の役割で、初めから会場を掃除して帰るために用意されていたのだと、驚きと賞賛を持って日本人の心の美質に触れている。

後片付けの習慣は、当たり前前と言えば当たり前前の行為かもしれない。だが、その『当たり前前』は世界では異質で、格別に美しい行為らしい。PISAの学力検査結果や問題行動の多発などで、教育の危機が論じられているが、それは一面的な見方かもしれない。特に、後先の美しさにこだわる美意識などは、家庭や地域、学校や社会で今も育まれている日本人の気質である。私たちの『当たり前前』は捨

てたものではない。そして、その心を育てる日本の教育も格別だ。

その視点で富の生徒たちを眺めてみると、うれしい発見がたくさんあった。あいさつができる。遅刻をしない。掃除ができる。教室の黒板がいつもきれいだ。先生への言葉遣いがいい。毎朝、毎朝、宿題を出す。宿題を忘れたときには職員室に断りにくる。忘れた宿題は放課後に仕上げて、その日のうちに出す。小テストは合格するまで、部活に行かず再テストを受ける。生活ノートは欠かさず出す。毎日、家で勉強する。決まりが守れる、などなど、たくさんある。

本校の生徒たちが『当たり前前』にしていることは、他校では『当たり前前』ではないかもしれない。凡事徹底は小さな学校だからできることかもしれない。けれど、やがて統合する新しい中学校の『当たり前前』に、この内のいくつかが残ってくれればと思うのだ。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会
鏡野町立富中学校 二木 裕之

のびのびひろば 鶴喜保育園夕涼み会

7月5日(土)鶴喜保育園で夕涼み会がありました。子ども達は輪投げやかき氷、焼きそば...お父さん、お母さん、先生たちのお店や、妖怪体操・アンパンマン音頭などの踊りなど楽しい一時を過ごしました。地域の方々もたくさん来てくださり、踊りには小学生も参加してお祭りを盛り上げてくれました。



どれにしようかな?
やぶれないように
きをつけて!



小さいお友達も
輪の中に入って
お兄ちゃん、
お姉ちゃんの
真似っこ。



みんな大好き♪
妖怪体操♪



「やったー!つれたよ!」
お母さんと一緒にお菓子釣り。



(鶴喜保育園)